

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げている。 経営理念：利用者様が自立した生活ができるよう援助する。(重要事項説明書に記載)		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝行なうフロア朝礼にて、職員の意識統一がなされている。また、毎水曜日には、全体朝礼を実施し、理念に基づいた目標を掲げ、理念の実践に向かっている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設入口に閲覧できるようにしているとともに、パンフレット等を広く地域に配布している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時等、地域の方からの声かけも多く、一緒に花をつんだりもしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域からの行事参加、呼びかけには積極的に応じるとともに、地域密着型施設として、地域交流福祉フェスティバルも開催している。		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	主任会議等を通して、地域で求められていること等をふまえた話し合い等を行ない、家族介護教室等を開催するなどしている。また、地域の公民館と共催して、講座等も開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	積極的に評価を受け、評価を活かした改善を行なうように、心がけている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録を作成し、フロアー会議内で検討するなどし、サービス向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区担当者だけでなく、区長への面会も定期的に行なうなどし、区内での高齢者支援についての話し合い等を随時行なうなど、情報の共有も行なっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、サービス提供作成者を中心に、職員のレベルに応じた、個々の研修により行なっている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、施設外研修に積極的に参加し、各法令を学び、ホーム内での研修を行ない、防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入所に係る面接時に、利用者様、家族様からの意向を伺い、対応を行っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情解決に係る整備を行ない、いつでも苦情を受け付け、解決に向け、体制を整えている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月、お便りを発送し、個々の家族様にも、個々に合わせた報告等を行っている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情解決に係る整備を行ない、いつでも苦情を受け付け、解決に向け、体制を整えている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	フロアー会議内にて意見を聞くこととし、提案については、積極的に行なうように指導している。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	他部署との連携を図りながら、会議時間を設定している。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の退職等に関して、利用者様へ配慮している。		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員へのスキルアップ等を積極的に支援している。現在、夜間コースにて資格取得を目指している職員有り。また、随時、外部研修への出席を支援している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議を発端にし、ネットワークづくりを確立し、3ヶ月に一回のペースで情報交換会を開催している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	メンタルヘルスにも力を入れるとともに、定期的な懇親会や職員旅行(一泊二日)等を開催し、リフレッシュする機会を設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤怠管理を行なうとともに、日々の業務日誌等により、業務内容等の実績をあわせて管理している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個々の利用者様との対話を大切にし、利用者様が何に不安を抱えているのか等を聞いている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族様からの要望や困りごとなどは、積極的に話し合いを行ない、利用者様だけでなく、家族様も含めてのメンタルケア等も行なうようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅生活等を強く望まれたりしている場合などは、在宅生活が支援できるように、他のサービスの情報をお知らせしたりなど、利用者様、家族様が求められていることを見極め、複合施設の利点を生かしながら、相談にのっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスやショートステイの利用により、施設の雰囲気等に慣れていただいたり、居室対応など、利用者様のペースに応じて、なじみの関係づくりを行なうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様から教えていただくことも多く、その時は、「ありがとうございます」ときちんとお礼を述べ、介護するだけの存在にならないよう、人間対人間のあたたかい関係づくりを行なっている。また、利用者様と職員は、家族であるということを常に伝えている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族様の関係をふまえ、必要時、利用者様と家族様の間に入るなどし、よりよい関係であるように、支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様と家族様の関係をふまえ、必要時、利用者様と家族様の間に入るなどし、よりよい関係であるように、支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりが馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、配慮している。スーパーへの買い物、地域公園へのドライブ、近所に位置する入所者様宅までの散歩など実施している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しないように、声かけや会話で誘導し、レクリエーションや日常生活で関わりあいを持っていただくようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族様の来訪、こちらからの家族様連絡などの配慮を行なっている。退所された利用者様、家族様の来訪もあり、相談も、随時、行なっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様と情報交換または、利用者様の意向を聞き、把握している。利用者様本位に検討し、利用者様の尊厳を守る配慮をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、本人の生活歴、生活習慣、環境を聞き把握している。また、家族様に協力いただき、聞き取りを行なっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録、排泄、食事摂取量記録表、予薬、バイタルチェックなどで把握し、ケアプラン評価を毎日行なって、現状把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様、家族様、職員間との話し合いにより、意向を反映した介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を設定した定期的な見直し、及び状態の変化に応じて、随時の見直しを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、利用者様一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様や家族様の要望に応じ、受診時の送迎や企画により外出、買い物等の外出希望時、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様の意向や必要性に応じ、近隣学校の運動会への参加や地域ボランティアの受け入れも積極的に行なっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養への転出や退所に係る病院への連絡連携等を行なっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を開催し、地域包括支援センターより意見等をいただき、改善等を行なっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科医師の往診体制が整っており、ご本人様が希望する病院等も含め、急変時の連携も行なっている。		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師または、認知症専門医受診により、医学的指示を頂き、実践している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当法人看護師と24時間連絡体制が整っており、日常的に協力し、介護状況の報告、情報交換を行ない、健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	安心して退院できるよう、医師や看護師との情報交換や相談を行なっている。家族様との連絡等、退院後の生活に向けての連携を行なえるようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医と施設看護師との連携により、方針を打ち出し、本人様並びに家族様の意向により進めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、準備中である。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族との親密な対応で、利用者様の心を穏やかにさせて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者様の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねる言葉かけ、対応はしていない。また、記録等の個人情報の取り扱いは慎重に行なっている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員は、利用者様が自己決定したり、希望を表出することを大切に、それを促す等の取り組みを日常的に行なっている。また、よく分かるよう、納得がいくよう、説明をしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様のペースに合わせ、職員の都合により、強制することなく、安心して過ごせるように支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>施設に来られるお店との調整により、利用者様の意向を聞きながら、行なっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様のペースに合わせているので、日によっては一緒に料理をしたりしている。また、後片付けについては、利用者様自身が役割と感ぜられ、積極的に行われている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物の日には、利用者様の意向をふまえながら、嗜好品を購入していただき、また、面会時には、ご家族様からの差し入れもあり、喜んで召し上がられている。</p>	

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>自然排便への取り組みを実践し、トイレにて排泄を行なっている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一応、決めてはいるが、健康状態により中止する場合もある。なお、中止した場合は、別日に入浴をいただいている。また、時々、デイサービスの大きな風呂に入らせていただくこともあり、大変喜ばれている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>生活のリズムとしてパジャマに着替え、寝れない方には、眠気がくるまで、お茶を飲むなどしながら、お話をしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者様のレベルに応じた対応なので、充分とはいえないが、一応、満足度は利用者様の表情等により満足されているように感じている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様の状態により、お金のトラブル、不穩を起こすこともあるので、管理は施設が行なっている。使用時、必要な分だけ、渡している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者様の希望により、2～3人で、散歩に出掛けたり、買い物に出掛けたりしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族様の要望により、市外の花見や紅葉狩りなどへ出掛けている。</p>		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望により、電話等、家族様への連絡を行なっていただくようしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	エレベーターホール内の談話室や地域交流スペースを利用して、ゆっくりと語らいの時間を持っていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設研修を行ない、取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各部屋からは共用のバルコニーがあり、自由に入出りできるが、常時見守り態勢をとっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、利用者様のプライバシーに配慮するとともに、柔軟にお一人おひとりのペースを保てるようにしながら、安全の確保を行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の、個々の性格等をふまえながら、柔軟な対応を行ないながら、危険を防ぐようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設内研修を行ない、研修を通して、専門的な知識を拡充するとともに、常に事故防止についての意識を高めている。		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しているとともに、採用時の研修や施設研修にて対応等を学んでいる。また、広島市消防局との連動により、救命講習については、年1回の研修を必ず受講するようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			広島市消防局との連携により、防災訓練等を行なっているが、今後、もう少し決め細やかなネットワーク作りを構築したいと考えている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	随時、家族様との連絡を行ないながら、利用者様の様子をお伝えしている。また、その際、予想されるリスクなどもふまえながら話をするとともに、利用者様に負担の係らない対応を行なうことなどを連携しながら行なっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に、利用者様の健康状態を把握し、早期発見、早期対応を行なっている。施設看護師や提携医療機関等、かかりつけ医との連携を図りながら、対応を行なっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員個々が、薬の目的や副作用について把握していくこととし、服薬の確認、体調の変化等も記録し、職員が情報を共有している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便委員会を通して、下剤等の薬ゼロに向けて、腸動を促す食の提供、腹部マッサージ等の取り組みを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日、きちんと歯磨き、歯の手入れ、うがいをしよう、職員が見守り、確認を行なっている。		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの食事摂取量を毎日チェックし、状態に応じた対応も随時行なっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会と連動し、研修等を行ない、マニュアルを作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防に係る研修を行なうとともに、常に次亜塩素酸水等を使用しながら、衛生管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせないように、家庭的な雰囲気づくりの配慮を行なっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の作品を利用者様、職員で作成し、毎月、壁面に大きく飾っている。落ち着き良質な雰囲気を醸し出す環境づくりを行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやテレビの位置等の移動により、ゆっくりと利用者様同士でお話できるスペースを作り出している。		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に自分のタンス、親しんだ小物等も置かれ、家庭的な感じをそのまま居室につくり出すようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は清掃時の他、食事時間で空いた時、素早く行なっている。季節に応じて室温を定めチェックしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行には歩行器をしようするなどし、歩くことへのサポート態勢をとっている。手すり等も配置し、物干し竿も低めにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様のペースに配慮しながら、できること、できそうなことを職員が見極め、すぐに介助に入るのではなく、残存機能を維持できるようなケアを含め、見守りを行なっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設外の散歩を定期的に行なっている。また、晴れた日はテラスにてお茶を飲んだり、レクをしたりしている。夕涼み会では、ベランダで花火も楽しんでいただいた。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1 職員の質の向上 ~ 外部での研修参加を行っている、また、外部研修を行った職員は他職員への伝達研修を行っている。また、定期的に行われる施設内研修では、日々のケアに即した専門知識・技術の向上に努めた。今後も専門的な認知症ケアの質の向上を図るために引き続き行っていきたい。
- 2 自立支援に向けたサービスの提供 ~ 個々の状態把握に努め、それに応じたサービスの提供により、声かけ・見守りの中で少しずつではあるが、自立に向けての自発的な歩行・排泄等へと繋がっている。今後も、個々の状態に応じ、対応を行っていきたい。
- 3 ソーシャルワークの確立 ~ 自然排便への取り組みとして、朝一番の冷水やヨーグルトでの対応を行っている。また、腹部マッサージや体操・散歩の実施により成果をあげている。なお、屋外への散歩は、自然排便への取り組みだけでなく、地域の方々との交流もでき、皆様の気分転換や小さな地域交流の場となっている。今後も、地域行事への積極的な参加とともに、随時受け入れている研修生についても、社会とのつながりとともに地域教育の場の提供として継続していきたい。
- 4 医療連携体制加算制度の採用・実施 ~ 看護職員により、日々の体調管理を行なっている。